The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	CALL教室＋CLE を使って
Author(s)	宮本, 陽一
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2014, 15, p. 46-47
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70377
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

CALL 教室＋CLE を使って

宮本 陽一（大学院言語文化研究科）

CALL 教室を長いこと避けてきた私が、現在は CALL 教室で CLE*を使いながら授業を行っている。今学期は、端末の「機嫌」が本当に悪く、故障（もしくは操作ミス）の連続だった。クラス全員に画像と音声を送ろうしても音声が送れない。一人の学生に話しかけていることが、他の数人の端末で聞こえる。このような場合、学生の反応は本当に冷たいものである。「早くなんとかしてください」という視線を何度も感じた。この種の問題はあるが、CALL 教室で CLE を使った授業は有用なものであると個人的には思う。以下では、クラスの課題を紹介しながら、CALL＋CLE の利点を私なりに 3 点挙げることにする。

最大の利点は、CALL 教室におけるテストの実施方法にあると思う。リーディングの授業では、各課題の最初に CLE 上で単語テストを行うことにしている。学生は教室に入ると、CLE 上で小テストのパスワード画面を開いて授業開始を待つのである。授業開始と同時にパスワードが知らされ、小テストが始まる。パスワードとして使われた単語の綴りがわからず、小テストが始められない学生がでてくることもある。恥ずかしそうに綴りを尋ねてくる学生は、このパスワードの単語の綴りを絶対に忘れないであろう。学生は、通常 5 分程度で解答を終え、テストを提出する。提出と同時に、点数だけでなく、間違った問題も確認する。授業の最初 10 分程度でここまで行うことができるので、非常に効率的である。しかも、採点する手間がゼロである。「大学英語」、「専門英語基礎」等の科目においては、CLE 上でリスニング教材の内容に関して正誤問題ならびに多技選択問題からなる小テストを行っている。これも単語テスト同様、自動採点を利用し、学生は自分がどこまで聞き取れたのか、その場で確認できる。授業中の限られた時間でこれだけのことが行えるのは、まさに CALL+CLE のお陰である。

このような小テスト作成には、かなりの時間をとられるのではないかと思われるかもしれない。実際、CLE を使い始めたときは、何をどうすればよいのかまったくわからなかったので、本学の Student Technical Staff 制度（p.92 参照）を利用し、小テストの問題作成を依頼していた。ただ、現在では、すべて自分で行えるようになった。コンピュータに詳しくなくても、慣れると結構出来るものである。単語テストは 15 分もあれば作れるようになった。

第二の利点は、ライティングの練習が効果的にできることである。授業中に CLE の「課題」を利用してエッセイをよく書かせるが、この場合 CaraboEX の「インカム」機能を同時に利用する。学生が書いているエッセイをその場で個々にチェックし、ヘッドフォンを通して質問をしたり、コメントをしたりするのである。学生は、その場で自分の間違いを指摘され、訂正するため、冠詞、時制等、自分の弱点を即座に認識できる。また、ここでのやりとりには英語を使うため、簡単な会話の練習にもなる。学生の意見を求めるようなエッセイの場合には、学生が授業中にネット上で必要な情報を検索することもでき、検索先を英語に絞ることによって速読の練習にもなる。最終的に授業中の限られた時間内でエッセイが完成できなければ、一時保存させ、提出期限までに完成させ、提出させるのである。このような課題の提示方法ができるのも CALL+CLE のお陰である。

第三の利点としては、教材選択の幅が広がったことが挙げられる。教科書の内容に関連したネット上の記事を読み、内容的に理解を深めることができる。たとえば、Darwin の Natural Selection について教科書で学んだ後には、追加教材として YouTube 上で紹介されているイエール大学の Natural Selection に関する研究紹介を利用することにしている。さらに、リーディング教材としてパロマ大学の教員が作成した http://anthro.palomar.edu/evolve/を読む。これらの

追加教材は、特に理工系の学生には自分の専門分野に近いこともあり、興味深いものであるようだ。ただ、これらの教材は容易に理解できない部分もあるため、授業で扱ったあとはCLE上にアップしておく。これで、学生は自由に復習ができるのである。このように追加教材にバラエティを持たせることができるのも CALL+CLE のお陰である。教材を探すための時間は必要だが、ネット上にはTEDを含め素晴らしい教材が山ほどある。最近は、通勤途中にiPadで教材探しをすることも少なくない。

ここまでCALL教室の利点を3点挙げてきたが、まだまだ試したいことはたくさんある。アメリカの大学で日本語を教えていた時に活用していた課題の中には、本学の英語教育に利用できそうなものも数々ある。ただ、コンピュータに詳しいわけではないので、すぐにというわけにはいかない。冒頭にも書いたが、学生に音声が届かなかった際、それがヘッドフォンの問題であるのか、それとも教員側の操作ミスであるのか、私には瞬時に判断できない場合もある。このような場合を含め、今学期も竹蓋先生、森先生をはじめとするマルチメディア言語教育研究部門の先生方、サイバーメディアセンターの職員の方々、TAを務めてくれた院生の皆さんには、大変お世話になった。CALL関係の方々無しに、私のCALL教室での授業は成り立たないのである。ここに、心からお礼を申し上げたい。そして最後に、来学期もお世話になります！

---

*大阪大学CLEはWebを利用した授業支援ツールのひとつで、授業ごとに学生と教員、学生同士のコミュニケーションを促進するためのディスカッションボード、配布資料やPowerPointスライドなど各種教材の公開、オンラインでのレポートの受付など様々な機能を備えています。http://cle.koan.osaka-u.ac.jp
（大阪大学全学教育推進機構「大阪大学CLE（旧WebCT）大阪大学CLEとは？」，<http://www.celas.osaka-u.ac.jp/education/support/webct-vista> 2014/9/22アクセス）